
不良品の書

夕神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不良品の薔

【著者名】

夕神

N5455D

【作者名】

【あらすじ】

主人公・疾風希望^{はやてひかり}は謎の病気のため病院生活をしている。ある日購買で見つけたチョコを巡っての喧嘩をする。喧嘩の相手はその病院の院長の子供で……

第一話

不良品…それは使えなかつたり、壊れた物を言ひ…。

俺は…神様の作った不良品だ…。

『どうしてつ！俺なんだよつ…。』

そんな考えは消えていた。

「…起きよう。」

変な独り言をつぶやき、身体を起こす。

俺・疾風 ハヤテ 希望は窓の外を見ていた。

窓の外には吸い込まれそうな色の世界が広がっている。

でも俺には…闇にしか見えない。

俺の周りは…白。

けれど…俺には闇しか見えない。

俺の目には…闇しか映らない。

俺はもうすぐ…

死ぬ…

…らしい

右手首に現れた闇色の線が口に口に増えていく…そして心臓に到達すると…死ぬ…と言つこと

生きる希望はもう…消えていて、代わりに絶望している。

誰か俺に…希望をください…

— 続く —

第一話 出会い

希望なんて、くれる人いないよな……。

俺はベットから下りた。

散歩でも行こうかな……。

どうせ暇だし……。

学校行きたいなあ～。

今頃何してるかな～あ、まだ登校中か……。

俺は財布を片手に購買へ向かった。

さて……と何を買おうかな～。

何か言いものないかな～。

まずは雑誌コーナー

「えつ……無いジャン……」

俺の読みたい本は無かつた。

…ショック

次は飲み物コーナー

別に喉が渴いてるワケではないが、とりあえずのぞく。いいもの無いかな……。

お?うまそうなの発見!

俺はレモンサイダーを手に取った。

レモンとサイダーだし……かなり酸っぱいだろう……。

次は何を買おうかな……。

辛い物?酸っぱい物?

…甘い物にしよう。

俺はすぐそこのお菓子コーナーに入った。
んー?

なんだかとても美味しそうだな～あのチューー

新製品かな……?

つか残り一つ!?

絶対欲しい！

俺は思考を止め、チヨコへと手を伸ばした。
後もう少しで俺の手に……？

「駄目え～！」

女の子の手が目の前に来た。

チヨコは一人に捕まれた。

「俺が先に見つけたんだ！」

「力の問題……よつ！」

女の子にあっさりチヨコを取られてしまった。
すると女の子がじろじろと見てきた。

「何？」

俺に何か着いてる？

「あの……？」

「あ～！疾風希望^{ハヤテ}～！」

「えつ……と……。」

どうして俺の名前しつてんだ！？
頭が真っ白になりそうだ……。

一体こいつは誰だよつ！

「私は奏刹那^{カナデセツナ}です」

「よろしく……。」

なんていきなり血口紹介……？

まあ名前を知ってるほうが話しゃすいけど……
奏つてもしかして……

「こここの院長の子供^{デス}」

「やつぱり……。」

「だからあなたの名前も知ってるのん
のんつて……」

— 続く —

第三話 崩壊

「でもさ～希望つて変な名前だよね～。」

「いきなり…酷くない？」

「だつて本当の事だし」

「あつそ…。」

ここは病院の屋上。

さつきのチョコはとつとつ…

刹那の腹の中に入っていた

先に俺が見つけたのに…

ひどい…残酷だ～！

一人でこんな事考えても…何も変わらない…

分かってるけど…考えてしまつ…

これが…人間なのかなあ…

「生きるって…どういう事が知ってる～？」

「はあ…！？」

「私…生きている事つて…よく分かんないの…。自殺願望が…高く

て…。」

オイオイ…

自殺つて…

そうか…そんな考え方もあるのか…

納得するところじゃないけど…

苦しむなら自殺した方が…

でもそんなこと…俺に出来るのか？

出来るなら…とつぐにやつてたよな…

俺は弱い人間だな。

「自分が生きてるつて…思う奴は生きてるんだよ。」

「じゃあ…私は生きてないね。」

「そう…なんだ。」

「ねえ…希望は？生きてるの？死んでるの？」

俺は…

どうなんだろうー…

考えたことないな…

そんな」と…

「欠陥品だつて思ったことがあるでしょ？」

欠陥品ー…？

俺が…欠陥品…？

不良品でも…なくて…

欠陥品…

ははっ…

笑わせてくれるよ…

「希望？何で笑ってるー…っ！」

俺は刹那の手首を掴み強引にキスした。

初めてだ…

こんなことするの…

刹那なんて…刹那なんて…

ズタズタに傷つけ…

壊れてしまえ…。

もう修復不可能なくらいまで壊れてしまえ。

それでも世界が動かないなら…

俺が世界を…

残酷なほどボロボロに崩壊してやる

ー続くー

四話 声を聽かせて？

何もかも… 何もかもっ！

もう俺には…

何も関係ないっ！

「痛つ… やめ… やめて…。」

刹那の声なんて…

オレニーハトトイティナイ

もう何も… 聞こえない、感じない

壊したい気持ちが渦巻いてる。

ズキッ

「…！？」

喉が… 痛い。

契れそう… 引き裂かれそう…

痛い痛い痛い痛い

「希望？」

刹那の手を離し、座り込む俺。

呼吸が難しい。

呼吸が出来ない。

生きているのが難しい。

「希望？ ねえしつかりして！ 希…。」

刹那の声が聞こえなくなつた。

俺は… 死ぬのか？

もう… 死んでもいいや。

「…！… 望！ 希望つ！」

刹那の声で目を覚ました。

「大丈夫？」

「つ！？」

声が…

出せない…出ない。

もしかして…

喉の病気に犯されたのかもしれない。

そんな…

俺はもう…喋れないのか？

そんなの…そんなの…

酷い

酷すぎるつ！

「まだ身体とか呼吸とか…安定してな…って希望！？」

分かってる。

身体が安定しない」とぐらい。

俺は身体についてる無数の機械を外す。

「…つ。」

ほら？まだ一つしか外していないのに呼吸が乱れてる。

そうなることなんて…刹那も知つてただろ？

「希望つ！駄目だよ！？死んじゃうつ。」

バシッ

頬に痛みが走る。

刹那に叩かれた。

痛い…と言つより…熱い。

「もう…やめてよ…希望が死んだら…私…。」

刹那は泣いていた。

どうして…？

俺なんかの事で…泣くんだ？

俺はまだ刹那の気持ちに気づいていなかつた。
いや…気づくはずもなく…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5455d/>

不良品の薈

2010年10月19日18時44分発行